

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とは、『その人が生活していた場所』のみではなく、『その人が生活をする為に必要としていた全ての環境』としてとらえ、その人らしい馴染みのある生活が継続できるような支援を心がけている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員のみならず、入居者の方々、来所者にも読んで頂けるように、リビングに『私たちの理念』を掲示している。また、職員ミーティング、毎日の送りの際にも随時確認をしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	定期的実施している運営推進会議や町内会の参加、入居時の説明や家族面談を通し理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。		まずは周辺地域の人へ認知症の理解を深めてもらうため、認知症の基本的な説明を町内会や地域の学校教員の方々に行っていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な挨拶はもちろん、散歩や買い物の時なども積極的に挨拶を行っている。また、気がねせずに来所していただけるような言葉も付け加えている。近所の公園周辺の掃除を入居者と一緒に行っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長が中心となり、自治会や町内の行事に参加している。地域の小学校の運動会には毎年招待を受けるとともに、職員は設営準備の段階から参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通し地域の実態の把握に努め、認知症の早期発見への取り組み方を検討している。また、介護相談も地域の掲示板で呼びかけを行い積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価はサービスの質の向上の為には必要不可欠の物と理解している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や日々の生活場面をこまめに写真に収めており、運営推進会議では写真と共にサービスの実際を説明している。会議後は議事録を職員に配布し再確認を行っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課へ定期的に訪問し、情報交換をしている。また、市主催の「介護サービス向上会議」及び包括支援センターによる「地域ケア会議」に出席し、市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について積極的に自ら学び、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人に対し、それらを活用できるよう支援している。		今後は職員に対しても、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修の機会を提供していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者が虐待防止の研修に参加し、研修内容をまとめ、ミーティング時に発表及びディスカッションを行っている。千葉県から発行された高齢者虐待対応マニュアルも直ぐに取り出せ読みやすい場所に保管している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時及び解約時には必要書類に基づき、十分な説明を行い、また、不安、疑問点を尋ね、利用者や家族等に理解・納得いただけるよう努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者や職員は利用者の意見、不満、苦情を把握するように努めている。また、介護相談員の定期的な訪問の機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>オンブズマン制度のような体制を整備</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ご家族に対し、入居者の暮らしや変化を写真付きで分かりやすい文章でまとめた新聞、おこづかいの出納帳と領収書、バイタルチェック表が含まれているサービス提供書を発送し報告している。急を要する場合は電話での連絡を行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族面談を設け意見を伺うと共に、普段の来所時にも、職員から積極的に意見や不満がないか伺っている。外部者へは運営推進会議を通して行っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>社員会議、職員ミーティングには必ず運営者が出席し職員の意見を聞き意見交換の時間を設けている。その場で解決できない課題に対しては、管理者が中心となり今後の課題として解決を目指している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう配慮している。利用者の急変時にはそれに対応できるような勤務体制を整えたことがある。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者スタッフの馴染みの関係が損なわれぬよう、異動は慎重に行っている。また、異動時には引継ぎ等を入念に行うよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>千葉県及び全国グループホーム協会主催の研修に参加している。事業所としても、認知症を支援する専門職 千葉連絡会の会員及び実行委員として運営に携わり、セミナーの設営から参加まで行っている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>認知症を支援する専門職 千葉連絡会を通し、同業者との交流を図っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日々のミーティングや個別相談を通して、管理者や職員のストレスを把握するよう努めている。また、懇親会等を定期的に開催し、管理者や職員との交流に励んでいる。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>内外部の研修会やミーティング等で各自が向上心を持って、明確な目標を持てるよう助言等を行っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初めに築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人から直接聴ける場合はご本人から、出来ない場合はご家族から聴くようにしている。アセスメントはセンター方式を用い、ご家族にも協力して頂き作成して細かな気づきを大切にしている。</p>	
24	<p>初めに築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人と同様聴くことは大切だと捉えている。アセスメントを作成して頂きながら、ご本人とご家族のニーズを把握できるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所だけのサービスでは限界がある。ご本人とご家族の状況に応じ、まずはご本人が本当に必要としているサービスを検討していく。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入居を利用して頂き、十分に検討してもらえるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	私たちの理念としても掲げている通り、共生を意識した援助を展開できるように努めている。家事仕事を一緒におこなったり、旅行に行ったりしている。食事は職員も同じテーブルで同じメニューのものを食べ家庭的な雰囲気作りを意識している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と同様に、ご家族との信頼関係の構築も必要不可欠。旅行やその他の行事はもちろん、日々の生活場面でもご家族が参加いただけるような言葉かけを行っている。生活上に生じた課題点等はご家族にも意見をもとめるようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に関しては時間などの制約もなく宿泊も出来るように対応している。反対に、ご本人が自宅へ帰ることに制約は設けていない。どちらにとっても自由に出入りができるような環境を作っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所は、その人にとっての地域だと捉えている。通っていた商店や場所への外出、年賀状や手紙を出すなどの行為を支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は様々な組み合わせでの人間関係の違いを理解し支援に努めている。全員参加の旅行や外出、気の合うグループでの旅行や外出などを実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、必要とされた際には、できる限りの助言及び支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式でのアセスメントを基にしたケアプランの作成、日々の生活での気づいた点を送りノートに記入、職員間の送りでの報告を通し職員全員が知ることができ、意見することができる。ミーティングでもディスカッションを行っている。		アセスメントを更に定期的に行えるようにしたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にもご協力頂き、センター方式でのアセスメントを行い、職員がいつでも目が通せる場所に保管している。日々の会話や行動からも新たな気づきがあり、その事をご家族に報告する事によっても忘れられていた生活歴や馴染みが発見できる時もある。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ある程度の一日の過ごし方は把握しており、その日の心身状態や場面を考慮しながらの支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式でのアセスメントを基に暫定的なケアプランを作成し、それを基にご本人、ご家族、関係者の意見を反映させたケアプランを作成している。		モニタリングの内容や結果を分かりやすくするための方法を考えている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標は具体的で達成しやすいものを設定するように心がけ、達成感を持ったまま次への目標に取り組めるように作成する。計画は必要に応じて随時作成する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報には1日の全体的な流れを記録し、送りノートには気づいたてんや事務的な内容を記録、個人ノートには日々の生活様様をありのままに記録している。職員は入社時にノートに眼を通したのちにサインを記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じ、同事業者の他サービスとの連携で柔軟な支援を行えるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の祭りなどのイベントや小学校の運動会、文化祭などには参加している。入居者も参加して定期的な消防訓練を実施している。		地域の学校との交流を深めたい。地域のボランティアの活動状況を把握し、交流がもてるか検討していく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じ、他のケアマネジャーやサービス事業者とその都度相談をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は現状では十分ではないといえる。		ミーティングの際に地域包括支援センターの機能、権利擁護について、職員全員が十分に理解していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科を基本とした診察については、主治医として地域の診療所の医師が2週間に1度の往診を行っており、その他の科については、ご本人、お家族の意向や主治医の判断により、他の病院に受診している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて精神科及び脳神経外科への受診を行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常的な健康管理は診療所の医師及び看護師の指示のもとで行っている。緊急時に関しては24時間医師への連絡が可能であり、その他のちょっとした事でも電話で連絡し医師の指示がもらえる。また、非常勤の看護職員を配置している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院に関しては、あくまでも完治が前提にあり、そのうえでの早期退院に関しては、医師、看護師、ソーシャルワーカーとの情報交換や相談に努めている。		認知症の為に入院時に条件が付いたり、完治までの入院が難しくなったりすることがあるため、そのようなケースが少しでも減らせる体制を考え支援していきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向は事前確認及びその時々で確認している。重度化やターミナルについては可能な限り、ご本人とご家族の意向に沿えるように医療の協力を得て努めている。ホームでターミナルをむかえた例もある。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現状の体制で『できること・できないこと』をその都度状況に応じて検討し見極めている。主治医との連携も欠かさっている。		重度やターミナルについては医療との連携が今以上に必要な場合もあるため、連携体制は常に整えておきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの際には、アセスメント表や個人ノートなどの記録物や話し合いなどで十分な情報交換は行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>状況に適した言葉かけを心掛けている。個人情報に関しても注意している。</p>	<p>団体生活の場面ではプライバシーを守ることが難しい場合もあるため、今後も意識していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>その時の状態や状況をふまえて『できる・できない』の見極めを意識した支援を心がけている。職員間の情報交換も大事だと捉えている。</p>	<p>日常生活での『できる・できない』を事柄ごとに細かく分けた記録表を作成し分かりやすくしたい。定期的な見直しも行っていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>自己選択・自己決定は大事にしている。難しい方に対しては、選択できるような環境を作れるように心掛けている。</p>	<p>どうしても職員側の都合で行動して頂く場合がある。できる限り減らしていけるように勤めていく。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容、美容に関しては、ご本人及びご家族からの要望がないのが現状だが、現在は訪問美容、訪問エステ、近所の理容店で対応している。</p>	<p>身だしなみやおしゃれに関するの興味が失われないような生活ができるよう心掛ける。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日3食必ずではないが、食事作り、盛り付け、後片付けを一緒に行っている。</p>	<p>時々ではあるが、メニューを考え、買い物、調理、片付けまでを入居者が主体で行う日を作っているが、まだまだ少ない。今後はもっと増やしていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物、おやつ等はその時に選択できるような言葉かけを行っている。現在は、喫煙、飲酒を日常的に行う方はいない。行事の時に軽い飲酒はしている。喫煙は周りの方に迷惑にならない所では可能だと考えている。火災防止のため自室では控えて頂きたい。</p>	<p>ホーム内だけでは個人の好みに対応するのは難しいため、外食も行い対応している。外食の機会をもっと増やしたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>必要に応じて、排泄のパターンをデータ化し出来る限りトイレでの排泄を支援している。誘導時には周囲の入居者に分からないような誘導を心がけている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>職員体制により、夜勤帯での入浴介助は難しいが、出来る限りご本人の入りたい時に入れるように支援している。</p>		<p>入浴をしたくない方の支援策を検討している。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>就寝、起床の時間は、その時々状況に応じてご本人が決めるように支援している。見当識の理解が難しい場合は、職員からの言葉かけやベッドへの誘導をおこなっている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>基本的には、自分事は自分で行える支援を心掛けている。楽しみや気晴らしに関しては、旅行や外出、行事などのイベント、散歩などを主として行っている。</p>		<p>個別的な余暇支援と団体生活だからできる余暇支援を検討してもっと充実させたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は職員が管理しており、外出時や必要時には、状態に応じてご本人に渡すようにしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>完全には希望にそっての対応はできないが、ちょっとした散歩や外出が出来るような支援を心掛けている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>ご家族への参加も呼びかけ、個別での旅行や全体での旅行を実施している。行き先は、日常の会話の中から探したり、テレビ、雑誌、広告などを見て入居者と一緒に決める場合もある。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの人や近所の人、一般の家庭を訪問するような感覚を持ってもらえるように心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。介護保険法指定基準を正しく理解できていない職員もいる。		全ての職員が介護保険法指定基準を正しく理解できるように取り組んでいく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間で理解のもと、玄関は夜間以外は施錠していない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	施錠をしていない為、常に各入居者がどこで何をしているかに気を向けるようにしている。		安全に対する配慮が行き届かない場合がある為、センサーの導入を検討している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特に馴染みのある物、生活に必要な物に対しては、どうすればなくさないで済むかを前提に考える。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	その人にとって危険な行為、注意すべき点については職員間で話し合い把握しているが、現状として完全には防げない部分もある。		転倒事故に対しては、今後も更に事故防止に取り組む必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡体制は整っているが、全ての職員に対しての応急手当の訓練は実施できてない。		定期的な訓練を内容も含め検討して行っていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと定期的な消防訓練は行ってる。非難経路に関しては各階に掲示している。地域の人々の協力体制は整っていない。		地域の人々の協力体制を強化できるよう働きかけていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族面談やケアプランの中でリスクについては説明し理解を頂きたい。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックの実施。普段との様子の違いを気づけるように注意して接している。必要時には直ぐに医師へ連絡する。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は薬局から発行される薬定を読んで把握しており、いつでも確認できるような場所に保管している。症状に変化があった場合は医師に報告し指示をもらっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や遊び、家事などの運動、食物繊維、水分の摂取や規則正しい食事、医師と連携し服薬の各方面から便秘対策を検討している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の状況によっては毎食後の歯磨きは完璧には行えていないが、基本的には朝夕の歯磨き、昼のうがい支援は行っている。月に2回、歯科医師は訪問し口腔状態をチェックしている。		毎食後の歯磨きが行えるように支援する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量やバランスを個々に考え、満足感が得られるように支援している。必要に応じて、食事と水分の摂取量を個別でデータに取り今後の支援を検討している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザなどの流行性の感染症に関する予防や対応の情報はその都度掲示している。入居者、職員は手洗いうがいを欠かせないように注意している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具の殺菌消毒、リビングの掃除は毎日夜勤者が行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家改装型であるため、玄関周りは一般の民家と同様段差がある。また、誰もが出入りしやすい環境は特別にはとっておらず、一般的な民家と変わらないことが親しみやすいことだと捉えている。		玄関先の段差解消は今後の課題。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭先には花壇、玄関やリビングには花や鉢植えを飾り入居者が主体となり管理できるような支援をしている。一般的な生活空間を作り生活感が持てるよう配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、玄関ロビー、2階にソファを設置し思い思いに過ごせるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や仏壇などを持ち込んでもらい、場合によっては設置場所も自宅と同じようにしている。安心できる空間がつけられるよう考慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	おむつ類は消臭効力のある物を使用し、その都度戸外のゴミ箱に捨てている。入居者の意見や様子を考慮して温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家改装型のため各入居者にとっての危険箇所は職員が把握して事故防止に努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員はその時の状況を判断し、それに応じたわかる力をいかし、支援に努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	軒先や庭に椅子やテーブルを設置し、休んだりお茶を飲んだりできる環境を作っている。暖かい季節には、食事やバーベキューも行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症という病を抱えていても、その人らしく毎日が過ごせるように日々支援している。その為に、スタッフの専門性を高められるように、研修会等に積極的に参加し、自